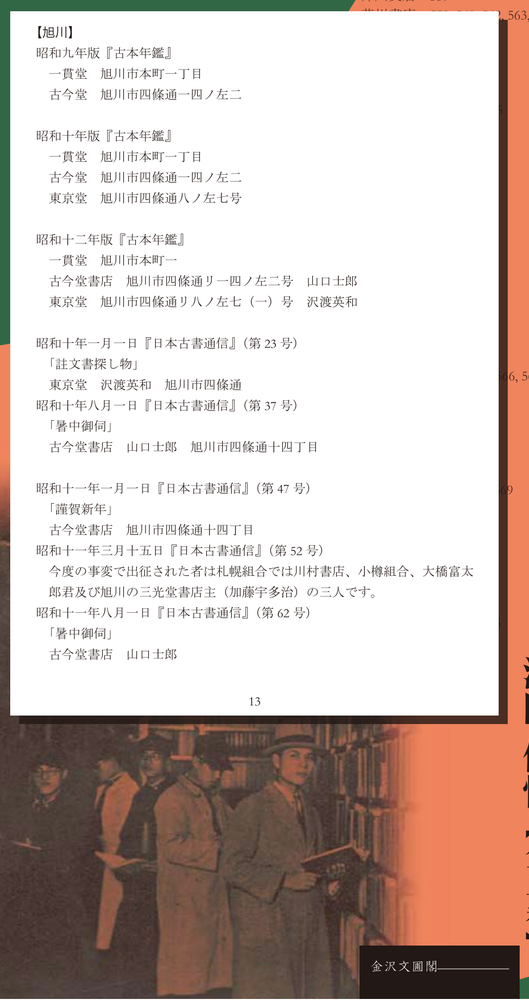
昭和戦前期から1970年代までの
古書店基本情報を広くカバー。

一般には手に入りにくい専門情報誌紙の記事はもちろん、広告・探書欄などからも、関係情報を採集する執念により本書は編成されている。

附録資料が本編を補充する。

昭和初期に叢生した趣味誌は、全国的に趣味人をつなげていった。全国をネットワークでつないだのが趣味誌の果たした役割でもあった。その具体的成果による、戦前唯一の全国古本屋地図『全国主要都市古本店分布図集成』（限定180部発行）などを附録として収録。



金沢文圃閣

地域古書店年表

書誌・出版史・書物メディア史のシリーズ ＊文圃文献類従 44＊

―昭和戦前戦後期の古本屋ダイレクトリー

（出版流通メディア資料集成（三））

編―沖田 信悦【全二巻】

3

【旭川】
昭和九年版『古本年鑑』
一貫堂　旭川市本町一丁目
古今堂　旭川市四條通一四ノ左二

昭和十年版『古本年鑑』
一貫堂　旭川市本町一丁目
古今堂　旭川市四條通一四ノ左二
東京堂　旭川市四條通八ノ左七号

昭和十二年版『古本年鑑』
一貫堂　旭川市本町一
古今堂書店　旭川市四條通リ一四ノ左二号　山口士郎
東京堂　旭川市四條通リ八ノ左七（一）号　沢渡英和

昭和十年一月一日『日本古書通信』（第 23 号）
「註文書探し物」
東京堂　沢渡英和　旭川市四條通
昭和十年八月一日『日本古書通信』（第 37 号）
「暑中御伺」
古今堂書店　山口士郎　旭川市四條通十四丁目

昭和十一年一月一日『日本古書通信』（第 47 号）
「謹賀新年」
古今堂書店　旭川市四條通十四丁目
昭和十一年三月十五日『日本古書通信』（第 52 号）
今度の事変で出征された者は札幌組合では川村書店、小樽組合、大橋富太郎君及び旭川の三光堂書店主（加藤宇多治）の三人です。
昭和十一年八月一日『日本古書通信』（第 62 号）
「暑中御伺」
古今堂書店　山口士郎

13

【宮崎】
安心書店　572
安心堂　570, 573
安心堂書店　569, 571, 574
安心堂書店支店　571, 572
安心堂仏具店　572, 573
一昭堂書店　574
岩城書店　569, 570, 572, 574
岩崎書店　574
梅川書店　569, 570
エンゼル書店　573
沖本書店　570
喜多書店　575
共進文庫
月照堂
月照堂書
向山堂
向山堂書
五雲堂
新光堂
新光堂書
鈴木書店
晴耕堂
晴耕堂書
青々堂
青々堂書
誠文社書
太陽堂
太陽堂書
中谷書店
延岡書院
延岡書店
白
橘木書店
宮
宮
森
【鹿児島】
糸
今生書店　579, 580,
教育拡充
金盛堂　580, 581, 582
金盛堂書
奎文堂　582
【沖縄】
球陽堂書房　589
【樺太】
上田書店　589
大田書店　589
香川書店　589
北沢書店　589
共文堂　589
共舎　589
近藤書店　589
文堂　589
大永堂　589
塔路書院　589
南部書店　589
博文堂書店　589
文正堂　589
松村書店　589
龍山堂　589
【朝鮮】
愛文堂　589
大峰書店　589
金港堂　591

金沢文圃閣

地域古書店年表

―昭和戦前戦後期の古本屋ダイレクトリー

（出版流通メディア資料集成（三））

編―沖田 信悦【全二巻】

把握が難しいとされる地方の古書店、赤本／露店などの零細小売商が本書に浮かびあがる。
古書業界に長年身をおいてきた編者ならではの目配りのきいた編集内容。

画期的な本書に寄せて……推薦文

柴野 京子（しばの きょうこ／上智大学文学部新聞学科准教授）

出版流通が新刊流通の同義語として使われるようになったのは、いつごろからだろうか。

誰もが一個人に戻れば、新刊書店に限らず図書館や古書店、学校や家の蔵書、友人どうしの貸し借りなど、さまざまな機会を通じて書物にふれていることはすぐに理解できる。にもかかわらず、生まれ育った周囲にどのような「本」があり、いかなる集積として、あるいは商品として提供されていたかを正しく俯瞰する手だては、現代においてすら十分ではない。まして過去の実態は、ごく断片的なものが得られるのみであった。とくに把握が難しいとされてきたのは、地方の古書店や赤本、露店などの零細な小売商である。メインストリームとなった出版業界に関しては、大正期に雑誌、書籍業者が縦割りで組織化され、組合史や名簿が手がかりとして残された。しかし古書については、神田神保町、本郷を中心とする東京古書組合関係史料の際立った充実ぶりに象徴されるように、記録、研究書とも京都、大阪など旧三都の都市圏に集中している。実態を知ろうとすればその地に赴き、古い商工名簿や地図、広告、納品伝票、回想録などをあたるほかなかった。

今回の『地域古書店年表―昭和戦前戦後期の古本屋ダイレクトリー（出版流通メディア資料集成（三））』は、そうした意味でいくつもの点から画期的だ。まずは当然ながら、大都市をのぞく全国をほぼ網羅していること。他の書店名簿や貸本情報などと併せてデータベースとして用いれば、広がりとともに量的な把握、地理的な分析、兼業の実態分析など今までにない研究の可能性を拓くだろう。さらには複数の刊行物から組合人事や広告、探書欄などを採集、元記事のデータを掲載しているために、そこを手がかりとして新たな調査や想像をめぐらすこともできる。これは古書業界に長年身をおいてこられた編者ならではの目配りで、一般には手に入りにくい専門情報を得る手段にもなるのである。昭和戦前期から1970年代まで、カバーしている年代が広いことも大きな魅力。数十年前のリストの中に見つける書店の名は、時を経て流通する本の空間そのものである。

＊文圃文献類従　44＊

編　者―沖田 信悦（近代古書流通／地域史研究）
造　本―A5判・函・総722頁、新組み＋復刻版
　第一巻―上製丸背／第二巻―並製
刊　記―2015年5月
揃　価―32,000円（第一巻 24,000円／第二巻 8,000円）
ISBN978-4-907236-37-3

【第一巻】594p
地域古書店年表 本文

【第二巻】128p
地域別屋号古書店名索引

＊附録復刻資料
（一）『全国主要都市古本店分布図集成―昭和十四年版』辻井甲三郎編（雑誌愛好会（京都）、1939年）
（二）『公認京城古書籍商組合規約（同施行細則）』（京城古書籍商組合、〔刊記不詳〕）
（三）『古本屋開業新案内（古本文庫）』朝倉巌著（古典社（沼津）、1934年）

編者紹介

1946年新潟生まれ。1969年明治大学文学部卒。現在、鷹山堂（古書店）経営。POW研究会会員。著書に『植民地時代の古本屋たち：樺太・朝鮮・台湾・満州・中華民国―空白の庶民史』（寿郎社、2007年）、論文に「砂時計の中の昭和電工鹿瀬工場（番外編）「集団学童疎開の蛮音」「私立昭和電工鹿瀬工場技能養成所と同青年学校について」」（『阿賀路（東蒲原郡郷土誌）』第42集、2004年5月）がある。

関連書籍紹介

柴野京子 編・解題
『出版流通メディア資料集成（一）―書籍雑誌業団体史編』
全4巻＋別巻　総1,933頁　揃価95,000円

柴野京子 編・解題／牧義之 解題
『出版流通メディア資料集成（二）―戦時日本出版配給機関誌編』
全12巻　総4,620頁　揃価264,000円

戸家誠 編・解題
『内地外地書店名鑑―明治大正昭和戦時期の本屋ダイレクトリー（出版流通メディア資料集成（四））』
全三巻　総772頁
原本2頁分を1頁に収める
二面付け方式にて編集・集成
揃価50,000円

金沢文圃閣
〒920-0867 金沢市長土塀2-16-30
Tel 076-261-8884　Fax 233-3111
□書店様へ…ありがとうございます
直接小間までお申し込みください
図版はすべて本書より
価格は税別　046／05／4000

刊行のことば

二〇〇〇年代以降、世間的には「古本屋さん」という業態に関心が集まっているという。私たちはそれを現在的な関心に留めずに、「古本屋さん」の生きた時代経験へと接合したいと考える。

私たちが戦前・戦時・戦後の文化を考える場合、それぞれの時期の出版統制を含む出版事情と、読者および読書の実情をおさえることは不可欠である。古書・古書籍商については、その出版関係ネットワークの一環に存在しながらも、資料の欠乏ゆえ研究対象としてはあまり扱われてはこなかった。
「電子出版」の登場によりこれまでの「出版」概念はゆらぎ、流通という問題が前景化してきた。出版流通、なかでも古書流通というメディアは読者に何をもたらしたか？　可視化されにくいメディアの近現代の経験をたどり、「古書の危機」をビジネス的な視点ではなく、読者・社会と書物の関係として考えたい。

本書は千葉県の古書店・鷹山堂の沖田信悦氏が「戦前の『日本の古本屋』状況」（全国古書籍商組合連合会機関紙『全古書連ニュース』）として連載したものを全面的に増補改訂し、再編集作業を行った上で出版する。
沖田氏の連載対象は、いまだ古書店の組合史が刊行されていない東京・大阪・京都などの都市を除く地方を対象とする。消え行くままに任される地域の古書・古書籍商への歴史的な参照が困難な状況を少しでも解消したいと願ってのことである。

今回の出版により、戦前から戦後にかけての古書店の基本情報を通覧することを可能とし、研究調査の際のツールとして、誰でもが活用できるようになり、より広く古書・読書・出版史研究の活性、ひいては戦時・戦後の文化を考える機縁につながればと念願している。

金沢文圃閣

昭和三十三年一月一日現在『全国古書籍商組合連合会会員名簿』
宮崎県古書籍商組合　宮崎県宮崎市江平町一の一　橋本書店方
宮崎市江平町一丁目　橋本書店　橋本実　古

昭和三十六年十月一日現在『全国古書籍商組合連合会会員名簿』
宮崎県古書籍商組合　宮崎県宮崎市江平町一ノ一　橋本書店方
宮崎市江平町一丁目　橋本書店　橋本実　古

各地域本文冒頭には昭和初期古書店基本資料*からの情報を包括的に掲載。その後の古書店のうごきへの理解を助ける。
*『古書月報』、『日本古書通信』、『古本年鑑』を主に参考とした。
排列は、地区＞『其中堂発売書目』＞『古本売買の実際知識』＞『古本年鑑』の発行年月日＞『全国主要都市古本店分布図集成 昭和十三年版』＞『全国主要都市古本店分布図集成 昭和十四年版』＞その他の情報源の発行年月日順とした。

【鹿児島】
昭和八年版『古本年鑑』
今井書店　鹿児島市山下町一八　◎
奎文堂書店　鹿児島市西千石町一四　◎
大正堂書店　鹿児島市県庁前　◎

昭和九年版『古本年鑑』
今井書店（明37）　鹿児島市山下町一八　今井進　＊◎
奎文堂　鹿児島市西千石町一四　鵜木岩助　＊◎
大正堂　鹿児島市山下町　米満イワ　◎

昭和十年版『古本年鑑』
今井書店　鹿児島市山下町一八　今井進　◎◇
金盛堂　鹿児島市天文河岸通リ一丁目　古本　浜田清彦
奎文堂　鹿児島市西千石町一四　鵜木岩助　◎
大正堂　鹿児島市山下町　米満イワ　◎
吉田書店　鹿児島市東本石町　小島立男

昭和十二年版『古本年鑑』
今井書店　鹿児島市山下町一八　郷土史料　今井進　◎◇
金盛堂　鹿児島市東千石町五四　浜田清彦
奎文堂　鹿児島市西千石町一四　鵜木岩助　◎
大正堂　鹿児島市山下町　米満イワ　◎
南洲堂　鹿児島市千石馬場通四丁目　児浦純代
山口書店（文耕堂）　鹿児島市千石馬場通四丁目　山口定二
吉田書店　鹿児島市東本石町　小島立男

「全国主要都市古本店分布図集成　昭和十三年版」（『雑誌愛好』第12輯）
大正堂本店　教科書本位　山下三七　米満イワ
大正堂支店
金盛堂　参考書本位　天文館通一丁目　浜田清彦
奎文堂　教科書本位　東千石町　鵜木岩助
南洲堂（副業）　西千石町六八　児浦純代
文耕堂書店（山口書店）　郷土誌、絶版本　千石馬場町通リ四　山口定二
日新堂　和本本位　加治屋町一七六　永田徳平
田中書店（文照堂・兼・田中探偵社）　加治屋町一〇三　田中四郎
太陽堂　高麗町九七　片岡政治

大正十五年四月現在『全国書籍商組合員名簿』
鹿児島県書籍商組合員
奎文堂　鹿児島市東千石町　鵜木岩助

昭和九年七月二十五日『日本古書通信』（第13号）
「鹿児島だより」　今迄古書市会も組合も無之候處今回相寄り「書交会」なる名目にて市会を組織仕り候。
九月早々宮崎県鹿児島県合同にて第一回発会式を挙行する事に決議した。
同志も参加する事に相成り候いづれ期日等おって御通知可申上候。
昭和九年九月十五日『日本古書通信』（第16号）
「鹿児島だより」〔……〕当地の古本屋は一寸変わった陳列をしています。監獄の建物のように店番から一目で店内が見渡せるように棚を斜めに扇型に配置していますが、お客からの感じはどうですかね。
昭和九年十月一日『日本古書通信』（第17号）
「鹿児島だより」　鹿児島書交会、這般当市古本市場として新たに発会した同会は、第一回会合を去る九月十八日午前十時より、山下町今井書店階上に於いて開催。同書店はもとより奎文堂、大正堂、金清堂、一誠堂、大学

本文原寸見本

●第一巻目次

凡　例……6

北海道
旭川……13
室蘭……16
帯広……18
網走……23
札幌……23
小樽……41
函館……48

東北地区
青森……61
秋田……67
岩手……71
山形……78
宮城……88
福島……107

関東地区
新潟……123
栃木……147
群馬……155
茨城……168
長野……173
埼玉……192
山梨……206
静岡……210
千葉……243

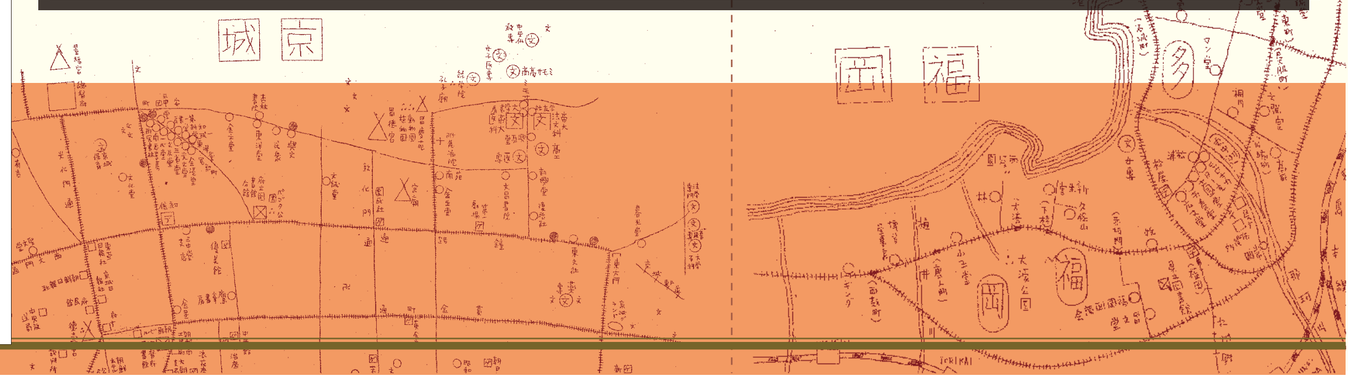
北陸地区
富山……259
石川……267
福井……286

東海地区
岐阜……299

近畿地区
滋賀……321
三重……329
奈良……342
和歌山……355

中国地区
鳥取……365
岡山……371
広島……407
島根……446
山口……449

四国地区
徳島……465
香川……475
高知……490
愛媛……512

九州地区
佐賀……529
長崎……534
大分……549
熊本……558
宮崎……569
鹿児島……576

外地
樺太……589
朝鮮……589
台湾……591